

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

新居浜特別支援学校川西分校

学校番号 (54)

評 価 実 施 日		令和8年 2月 17日 (火)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	小野 真理	P T A会長	書面にて参加
	佐藤 名美	P T A副会長	
	坂上 公三	新居浜市連合自治会長	
	岡野 弥生	口屋跡記念公民館長	
	眞田 満	愛媛県立新居浜西高等学校教頭	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 キャリア教育 ・「キャリア」という言葉が分かりにくく、就労と結び付いた活動のみがキャリア教育だと受け取られがちである。 ・小学部段階では特に理解が難しいため、文書よりも直接の説明した方が伝わりやすい。 ・P T A役員経験を通して内容を理解できた部分が多い。情報の伝え方には課題がある。 2 新居浜西高等学校との交流・連携 ・同一敷地内という特性を生かし、昼休み交流、総合学習や進路学習での授業協力、防災訓練の合同実施など、多面的な交流が行われている。継続的に参加する生徒は、福祉や特別支援教育に強い関心を持つ傾向があり、将来の進路選択にも影響している。 3 地域との協働 ・ものづくり交流では、公民館や地域の高齢者と協働で本棚制作を行った。地域側は、子どもたちが最後まで諦めずに取り組む姿や、教師の工夫を間近で見ることで認識が変わり、「もっと協力したい」という意識が高まった。この取組は、単なる体験活動にとどまらず、地域住民の理解促進、思い込みの解消、支援意識の向上につながった。 4 防災 ・合同避難訓練では、協力する気持ちはあっても、何をどうしていいかわからない。一方、支援を受ける側も、集まった人に対して的確な指示を出すことができていない現状がある。 5 P T Aの雰囲気と学校の特色 ・規模が小さいことを強みとし、「一人一役」などの関わりも通しながら温かい学校風土を形成している。 6 学校評価アンケート ・アンケート結果は非常に高評価であり、きめ細かな支援の成果が出ている。	・キャリア教育は進路指導や実習だけではなく日々の係活動、役割を果たす経験、「ありがとう」と言われる体験など、小さい頃からの積み重ねであり、これらすべてが社会的自立につながる基盤である。特に、懇談会や行事の場などで繰り返し具体例を挙げながら丁寧に伝えていく。 ・多様性理解の観点からも、交流の意義が確認された。今後も継続的に関わりの場を設け、相互理解が図れるよう努める。 ・学校と地域との関わりは、子どもたちを理解してもらう機会になるだけでなく、地域の方々が力を発揮できる場にもなり、互いに豊かになれる双方向の関係性が生まれている。今後も双方にとって有意義な活動を探り、連携を取りながら進めていく。 ・地域の防災士が合同避難訓練を見学する機会を設けてはどうかとの提案があった。現状を知ってもらうことから始め、役割の明確化、物資運搬（食料・医薬品・椅子等）の支援依頼、医療的ケア児への配慮など、具体的な動きや支援方法の共有、検討を進め、協力体制の構築を図る。 ・本校の特色である小規模性を生かしつつ、安心して関わり合える関係性を引き続き大切にしていく。今後も協力しながら教育活動や学校行事を推進する。 ・高評価を受けたことは継続しつつ、今後も、子どもたちのことを地域により深く知ってもらうこと、校外活動や交流の際に人と人との関わりを意識的に大切にすること、防災をはじめとする具体的な課題について平時から協力体制を整えることなど、課題を来年度に向けて着実に改善し、重点として取り組んでいく。